

明治三十三年三月ヨリ三年間佛國留學被命 助手 和田英作 鹿兒島士
明治三十四年十一月ヨリ二年間佛國留學被命 助教 白井保次郎 愛

媛平

(『東京美術学校一覽 從明治三十四年
至明治三十五年』)

このほかに岡田三郎助も滞仏中であつたが、彼の場合、国費留学期限は
本年五月までであつた。

3 本年度内卒業

明治三十四年度の卒業式は七月十日に行われ、本年度分の卒業制作を校
内に陳列し、父兄および有志の人々に縦覧させた。卒業生の内訳は日本画
十二名、西洋画五名、鍍金・図案・塑造各一名、木彫三名、彫金三名、撰
科二十五名、図画講習科一名である。

4 改築目論見書

目論見書の内容は不明だが、明治三十四年七月二十四日付『読売新聞』
に

○東京美術学校の新築計畫 東京美術学校へ今年も又新築豫算を主務省
に請求する趣なるが、若し希望を達する時ハ現時の校舍へ一條の通路を
以て中斷せらるゝ筈、即ち道路を距て校舍を建つる計畫の由

とあるところよりすれば、現在本学敷地を二分している道路(東京国立博
物館↓桜木町)の敷設計画はこの当時からあつたことがわかる。

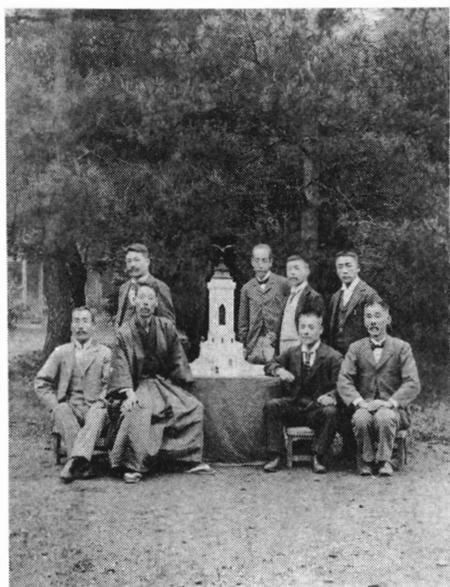
5 依囑製作

本年新たに依囑を受けたものについて判明している事柄を記す。

征清紀念銅標 金鵝造型主任沼田一雅、製作主任桜岡三四郎、製作担任

津田信夫

仙台昭忠銅標(仙台青葉城址に建立) 図案河辺正夫、原型沼田一雅、鑄
造主任桜岡三四郎、同担任津田信夫および本校卒業生
故佐久間貞一胸像 原型製作黒岩淡哉



昭忠標(雛型)製作記念

左より河辺正夫、桜岡三四郎、久保田鼎、一人お
いて沼田一雅

このうち、特に規模の大きい「仙台昭忠銅標」は各紙がとり上げてい
る。左記はその中の一つである。

○宮城縣昭忠碑の建設(挿圖參看) 宮城縣の官民有志が第二師團所管
の軍人軍屬にして戦死せし者の忠魂を弔慰し勲績を昭表する目的にて組
織せる昭忠會にては豫て仙臺市舊青葉城址なる招魂社社殿の背後の最高
丘に一大紀念碑を建設せんと一昨年十二月其設計圖案を東京美術學校に
依頼し來りしを以て同校にては圖案科教師河邊正夫氏を主任として之が

圖案を調製し該圖案に基き昨年七月起礎の起工に着手し其上に取付くべき金鶏は同校に於て沼田〔一雅〕助教が原型、櫻ヶ岡助教が鑄銅を擔當して夫れく製作中の所基礎は既に竣工し金鶏も此程に至りて全く鑄造を終り目下其仕揚げ中なりと云へば青葉城頭に一大偉觀を現出するも遠きにあらざるべし 本碑はゴシック式の石柱上に鑄銅の金鶏を置き其前後に鑄銅のパズルを裝置し、「昭忠」の文字及び起工竣工の年月を表記するものにて其他は總て石材を用ひ總高六十尺、金鶏の左右翅の直徑一丈五尺餘なるが鑄銅に要せし地金は千四百餘貫に上り其建設總豫算は二萬千二百圓なりといふ

(明治三十五年八月十二日『東京朝日新聞』。挿図は省略する。)

6 御買上げ

品目は135頁「成績品の 天覧」参照。

関連事項

① 職員任免その他

明治三十四年
一月二十九日 海野美盛フランスより帰国。

二月一日 千頭庸哉雇を命ぜられる。

二日 教授山田鬼斎歿。

五日 武田五一解嘱。大沢三之助嘱託を命ぜられる。

十三日 岩村透西洋美術史授業嘱託に復帰。

三月二十七日 田島応親解嘱。合田清仏語授業嘱託に復帰。

二十九日 海野美盛復職(教授)。

四月十一日 津田信夫雇(依嘱製作担任兼鑄金科助教)を命ぜら

れる。

五月三日 助教櫻杉浦宗行歿。

十五日 黒田清輝、久米桂一郎帰国。助手小林万吾助教を命ぜられる。

命ぜられる。

二十九日 久米桂一郎復職(教授)。

八月九日 久保田鼎校長を辞任。正木直彦校長を命ぜられる。

久保田、正木送迎会(上野精養軒)開催。

十二日 今泉雄作解嘱。

三十一日 瀧精一解嘱。

八月 溝口宗文、本田種竹、新井春次郎解嘱。

九月三日 蔵原惟郭解嘱。

六日 中沢澄男解嘱。中村如等、高橋烏谷解雇。大村西

十二日 崖彫刻科授業嘱託を解かれ、美学及び美術史授業、支那歴史授業嘱託を命ぜられる。関保之助東

洋考古学授業嘱託を命ぜられる。

助教授島田友春辞職。同花草神来休職(辞職)。

助教授本多天城辞職。

助教授本多天城辞職。

助教授本多天城辞職。

助教授本多天城辞職。

助教授本多天城辞職。

助教授白井雨山彫刻研究のため二ヶ年間ドイツ、フランス留学を命ぜられる(十一月二日出発)。

菅野真雇(文庫掛)を命ぜられる。

十一月九日

十二日 岡田秋嶺助教に任命される。